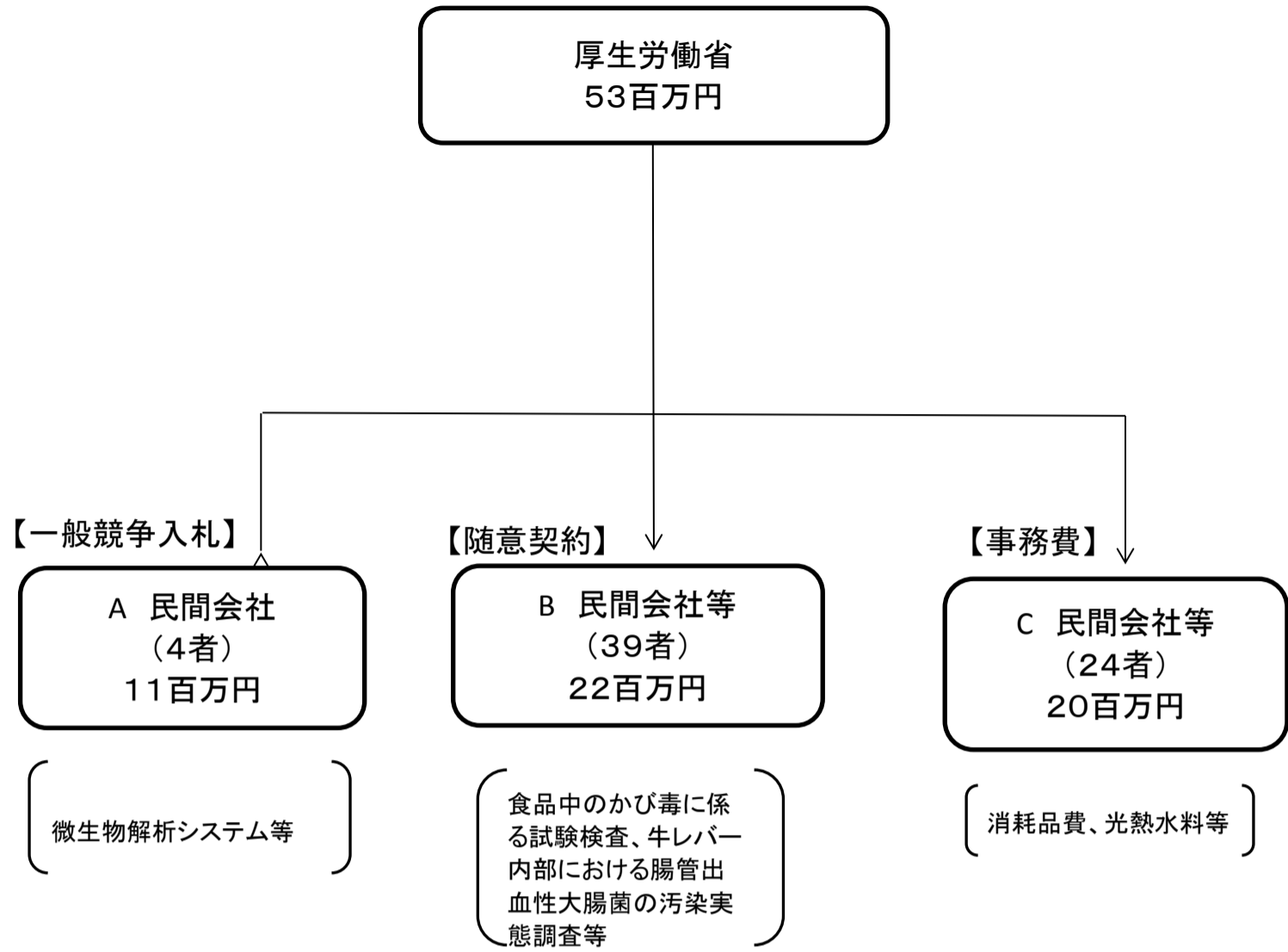


平成24年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	食品汚染物質の安全性検証推進事業		担当部局庁	食品安全部		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成16年度		担当課室	基準審査課		森口 裕		
会計区分	一般会計		施策名	IV-4-1 食品等の安全性を確保する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	食品衛生法第11条		関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	食品中の汚染物質(ヒ素、カドミウム等)における精密なばく露状況を把握し、個人によって摂取頻度の異なることに着目した安全性を検証し、今後のリスク低減のための方策(摂食指導、基準値の設定及び見直し)を講じる際の基礎データを得ることにより食品の安全性を確保する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	個人によって摂取頻度の異なる食品について、一定期間内の摂取実態調査を実施し、精密な汚染物質のばく露量を推定する。また、食品中の汚染物質(ヒ素、カドミウム等の重金属)は通常的环境中に広く存在していることから、広範囲の食品について、汚染物質の含有濃度実態調査を実施する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	29	28	51	50	50	
		補正予算						
		繰越し等						
		計	29	28	51	50	50	
		執行額	36	25	53			
	執行率(%)	125.8	89.7	103.9				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	食品からの汚染物質の精密なばく露量の推定を踏まえ、新たな規格基準の整備などを行うものであるため、定量的な指標を設定することは困難。		成果実績	—	—	—	—	—
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	規格基準等の設定(3件)		活動実績		—	3	3	—
	長期的な汚染状況を調査し、その結果を踏まえて基準を設定する等の必要性が発生するものであるため、あらかじめ見込みを設定出来るものではない。		(当初見込み)			( — )	( — )	( — )
	コーデックス委員会等の国際会議へのデータ提供(1件) 薬事・食品衛生審議会へのデータ提供(1件)		活動実績		4	4	2	—
		(当初見込み)			( — )	( — )	( — )	
単位当たりコスト	約11(百万円/件)		算出根拠	○平成23年度 執行額÷(活動実績+成果実績) 52,760千円÷(3+2)≒11(百万円/件)				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0.1	0.1	-				
	職員旅費	0	0					
	委員等旅費	0.1	0.1					
	庁費	0	0					
	食品等試験検査費	50	50					
計	50	50						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	近年、事故米転売事件によるアフラトキシン汚染、中国製加工食品のメラミン混入など、食品中の汚染物質に関する事案が頻発し、国民の食に対する不安が増大しており、食品の安全性を確保するため、国内に流通する食品中の汚染実態やばく露状況等の調査、基準値の設定等を行う本事業は、国民のニーズが高く、優先度も高い。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	食品衛生法に基づき国が基準の設定等を行うのに必要なデータの収集や設定した基準を継続的に検証する本事業は、国が実施すべきものである。
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	—
資金の流れ、費目・使途	△	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の一部に随意契約がある。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	少額随契についても複数者から見積をとり、コストの削減に努めている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	汚染物質の実態調査のための検査実施機関への委託経費並びに非常勤職員の人件費など必要経費に限定されている。
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	専門家、有識者の見解を踏まえ、国は事業の実施要綱において実効性のある取組を示している。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	—
	△	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	あらかじめ見込みを設定することは困難であるが、着実に実施している。
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	—
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	本事業によって得られたデータは、コーデックス委員会へ提供し、我が国の実態が国際的な規格基準に反映されるよう対応している。
点検結果	<p>本事業によって得られたデータは、規制対象物質に対し規格基準を設定するにあたり重要なデータとなるため、コーデックス委員会等の国際会議及び薬事・食品衛生審議会の審議において公表される事が前提となっており、適正な内容を得よう努めているところであり、調査データに基づいて広く一般国民に対し汚染物質の含有濃度が高い食品について摂食頻度を下げるよう指導する等の活用をしている。</p> <p>なお、調査対象となる汚染物質の選定については、最新の科学的知見及び従前の本調査結果を踏まえつつ検討しており、調査の実施にあたっては、精度の高い調査結果が得られるよう努めているところである。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	本事業は、食品中の汚染物質の含有濃度実態調査等に必要な経費であるが、事業の必要性及び執行の観点からは概ね妥当であり、引き続き効率的な執行に努めること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
—	—		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
—			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0329	平成23年行政事業レビュー	0299

※平成23年度実績を記入



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

A.(株)帝国理化			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
備品費	微生物解析システム (Applied~リアルタイムPCRシステム) 1式	5	—	—	—
計		5	計		0
B.(株)高長			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
消耗品費	GLサイエンス InertSep VRA-3 30本 外32点	0.91	—	—	—
	InertSustain C18 3um 2.1×150mm 4点 外9点	0.69			
	Acetyl coenzyme A sodium salt~ 1点 外3点	0.39			
	インビトロジェン プラストシジン 50MG 14点	0.39			
	GLサイエンス ボンドエルトLRC SAX 4点 外3点	0.34			
	マイクロチューブスタンダード1.5ML 1000本 8点 外2点	0.34			
	デオキシバレノール-3-グルコシド 溶液~ 2点 外9点	0.33			
	和光純薬 デオキシバレノール標準品 試験用 5mg 3点 外3点	0.33			
	和光純薬 超純水 LCMS 3L 1点 外15点	0.32			
	アジレント ファーストスイッチキャピラリー(ガラスタイプ) 1点 外2点	0.31			
	バイオコート フィブリラーコーゲンカルチャーインサート 10点 外1点	0.31			
	ポリビニルアルコール 250g 1点 外19点	0.31			
	Screw cap, solid top with PTFE~ 1点 外5点	0.19			
	VICAM シトリテスト HPLC用 25本 3点 外14点	0.19			
	ブルーチップ 100~1000ul クオリティー 8点 外4点	0.16			
	バキュームポンプオイル Edwards 1L 2点 外1点	0.07			
	QIAamp DNA Mini Kit(50) キアゲン 3点	0.06			
	Percoll 250ml GEヘルスケア 1点 外2点	0.05			
	インビトロジェン プラストシジン R21001 50MG 1点 外1点	0.03			
	食品検査用検体 ジャパンフリートドリトス ナチョチーズ味 1点 外49	0.03			
計		6	計		0
C.東京電力(株)			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
需要費	電気料	2	—	—	—
計		2	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
—	—	—	—	—	—
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A. 一般競争入札

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)帝国理化	微生物解析システム (Applied～ リアルタイムPCRシステム) 1式	5	2	100.00%
2	(株)紀伊国屋書店	平成23年度 外国雑誌～Analytical～ 1点 外90点	3	4	81.00%
3	Elsevier B. V.	平成23年度 サイバース・サイエンス・ダイレクト 1ヶ年	2	1	100.00%
4	日立キャピタル(株)	レーザーユニット 1式 オリンパス光学工業製 FV-LD405 賃貸借 6ヶ月	1	1	97.40%

B. 随意契約

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)日本食品分析センター	食品中のかび毒(フモニシン)に係る試験検査 一式	0.9	随意契約	
2	(財)日本冷凍食品検査協会	食品中のかび毒(フモニシン)に係る試験検査 一式	0.9	随意契約	
3	(株)高長	GLサイエンス InertSep VRA-3 30本 外32点	0.9	随意契約	
4	品川邦汎	牛肝臓の腸管出血性大腸菌及び大腸菌群の汚染実態に関する検査及び情報整理	0.8	随意契約	
5	(株)高長	InertSustain C18 3um 2.1×150mm 4点 外9点	0.7	随意契約	
6	兵庫県	牛レバー内部における腸管出血性大腸菌の汚染実態調査	0.7	随意契約	
7	(株)プラクティカル	管理標準試料 DON用 1Kg (不検出小麦) 6点 外2点	0.6	随意契約	
8	(株)プラクティカル	管理標準試料 フモニシン用 1Kg (不検出コーン) 1kg 6点 外2点	0.6	随意契約	
9	大阪府(大阪市)	牛レバー内部における腸管出血性大腸菌の汚染実態調査	0.6	随意契約	
10	宮崎県	牛レバー内部における腸管出血性大腸菌の汚染実態調査	0.6	随意契約	

C. 事務費

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京電力(株)	電気料	2	随意契約	
2	日本無機(株)	HEPAフィルタ	0.8	随意契約	
3	(株)豊島製作所	安全キャビネット撤去引取り作業	0.5	随意契約	
4	(株)豊島製作所	真菌室間仕切り用引戸取付作業	0.4	随意契約	
5	東京ガス(株)	ガス料	0.4	随意契約	
6	東京都水道局	水道料	0.3	随意契約	
7	日本毒性病理学会	Journal of Toxicologic～ 別刷代一式	0.2	随意契約	
8	日本無機(株)	HEPAフィルタ	0.2	随意契約	
9	(株)伊藤サプライ	HPインクカートリッジ C9720A 黒 1点 外5点	0.1	随意契約	
10	日本空調サービス(株)	衛生微生物部エアコン室内機移動作業	0.1	随意契約	